

第3回検討部会における主な論点整理について

1. 会議の概要

日時 令和5年12月27日(水) 17:00~19:15

- 議題
1. 前回部会の会議録の確認について
 2. 道明寺こども園の幼保連携型認定こども園移行による効果検証について
 3. 市立幼稚園、保育所及び認定こども園の課題解決について

2. 道明寺こども園の幼保連携型認定こども園移行による効果検証について

- 認定こども園の移行は順調に進んでいる
- 検証で示された課題を解決し、引き続き、教育・保育の質向上の取り組みを進められたい

部会においても、「認定こども園推進本部と同様の評価とし、子どもたちは園生活を楽しんでおり、保護者の方もある程度評価いただいている。課題については、今後の園運営の中で課題解決を進めていけるもの」と評価

3. 市立幼稚園、保育所及び認定こども園の課題解決について

- 運営経費の比較
- 各認定こどもにおける需給バランス
- 1号認定こどもは減少傾向、2,3号認定こどもは増加傾向
- 共働き世帯増加による長時間保育への対応
- 保護者の就労状況に関わらず通園し続けることができる施設か否か
- 市の公共施設更新の考え方

部会として、「市の教育・保育環境を取り巻く課題に最も対応がしやすいのは、幼保連携型認定こども園である」と結論

4. 公立の役割について

- 市内の保育の質向上に向けて
- 乳幼児期から義務教育期の教育・保育の接続に向けて
- 保育行政の充実向上

5. 部会の意見について

- ノンコンタクトタイムは、保育者が保育の現場から離れ、その日の保育の振り返りを行うことでその日の保育の良かった点、課題に感じる点を整理し、今後の保育に生かしていくことを目的にしているが、十分取れるほどの人身体制ではない。

- 道明寺こども園の保護者アンケートにより、園や職員とのコミュニケーションを課題に感じる意見が多いように感じたが、園の運営を続けていく中で、保護者の理解が進んでいくのではないかと思う。
- 道明寺こども園について、本来二つの組織が一緒になれば、双方の良いところは残して、改善すべきところは改善していくものであるがそれが難しい。現場で困っていることもあると思うが、良い方向に向けていくためのノウハウを突き詰めて考えることが一番良いのではないかと思う。
- 幼稚園という 1 号認定こどもだけの施設をそのまま残していくことはとても難しいと認識している。
- 社会において多様性への対応が求められる中で、様々な特性を持つ子どもたちのニーズをどう受け止めていくかを考えないといけない。
- 市立幼稚園の集団教育は難しくなっているが、様々な特性をもち、大きな施設の中でははじめないこどもがいることが想定される以上、全てのこどもにとって一定人数以上の集団教育が最適な保育と言えるのかは考えていかないといけない。
- 今後大きな改革においては、「園の規模」という視点も必要である。
- 公立園はセーフティネットであるので必要な施設や人員を確保することが大事である。
- 幼保連携型認定こども園では、保護者の就労状況に関わらずこどもが安心して同じ園に通い続けることができるため、今後共働きの家庭が増えていくことを踏まえても非常に価値が高い。
- 若い職員の離職率低下に向けて、藤井寺市に就職してよかったと思えるような取り組みを続けていって欲しい。
- 公立施設の役割について、「市内保育の質向上に向けて」「乳幼児期から義務教育期の教育・保育の接続に向けて」「保育行政の充実向上」の3つの視点と、セーフティネットであると市が認識していることを理解して、今後の議論に繋げていければと思う。